

妊産褥婦の助産師に対する 認識とその認知経路

鶴見薫 山西雅子 小林正代 福井トシ子
公益社団法人 日本看護協会

調査の背景と目的

安全・安心な出産環境の整備に向けた課題を探るため、日本看護協会では平成24年に分娩取り扱い施設の看護管理者と、助産師を対象に全国的な調査を行った。

しかし、今後の助産ケア提供体制の在り方を検討するうえで、「助産ケアの受け手」による助産師に対する認識やケアへのニーズ把握が必要と考えた。

そこで、ケアの受け手がどのように助産師を認識しているか、特に、助産師の認知経路を明らかにすることを目的とした。

調査方法

調査対象

- 既存のWEBページに会員登録している出産経験のある女性
- 調査期間前1年以内に出産した既存のWEBページ会員
(調査実施時点で、約50,000人)
- 医療関係者は除外対象
(分析時に、分析対象外とする)
- 既存WEBページの活用理由
 - ・年間出産数103万人(H24)の状況において、約50万人の女性が会員登録している
 - ・会員登録時に、なりすまし防止の対応をしているため信頼して調査依頼ができる

調査方法

調査方法

- 対象者全員に無記名自記式WEBアンケートの調査依頼文をメール送付
- 回答に同意した対象者によって、WEBアンケートのWEBページに移動、回答結果はWEBページの運営会社が管理

調査期間

- 平成25年11月20日～27日

調査内容

調査内容

- ・対象者の属性：出産時の年齢、初経産、分娩様式、分娩施設等
- ・助産師の認識の有無
- ・助産師を認知した方法

倫理的配慮

本調査は、日本看護協会研究倫理委員会の承認を得て実施。調査への回答は自由意思であり、不利益を被ることは一切ないこと、収集したデータは匿名化され、本研究目的以外に使用されることはなく、同意のもと調査に回答してもらうことを依頼文に記載した。また、WEBページの運営会社が、回収データを利用することはなく、本会に報告後データを破棄。

回収状況と分析方法

回収数

- 調査期間中の回答者数: 2,722名

分析対象

- 医療機関就業経験者を除外した、病院または診療所で出産した2,146名
- 有効回答率 78.8%

分析方法

- 統計ソフト SPSS Ver.19 for Windows
- 単純集計、Mann-WhitneyのU検定、 χ^2 検定

回答者属性

分娩施設

分娩施設	病院 n (%)	診療所 n (%)
	1,362 (63.5)	784 (36.5)

分娩施設別属性

	病院	診療所	p値
年齢 (M±SD) 歳 range	31.91±5.23 18-47	31.41±4.48 19-43	0.10
初産婦 (%)	820 (60.2)	434 (55.4)	0.025*
経産婦 (%)	540 (39.7)	350 (44.6)	
経膈分娩 (%)	1092 (80.2)	686 (87.5)	0.361
予定帝王切開 (%)	142 (10.4)	51 (6.5)	0.004**
緊急帝王切開 (%)	124 (9.1)	45 (5.7)	0.008**

χ²検定、Mann-WhitneyのU検定

*:p<0.05 **:p<0.01

『助産師』に対する認識

助産師という専門職がいますか？

□分娩施設別

病院 (n=1,350)		診療所 (n=780)		p値
はい	いいえ	はい	いいえ	
1,330 (97.7%)	20 (2.3%)	767 (97.8%)	13 (2.2%)	0.739

χ^2 検定

□初経産婦別

初産婦	病院 (n=809)		診療所 (n=433)		p値
	はい	いいえ	はい	いいえ	
	794	15	423	10	0.586

経産婦	病院 (n=539)		診療所 (n=347)		p値
	はい	いいえ	はい	いいえ	
	535	4	344	3	1.000

χ^2 検定、イエーツ補正

『助産師』の認知経路

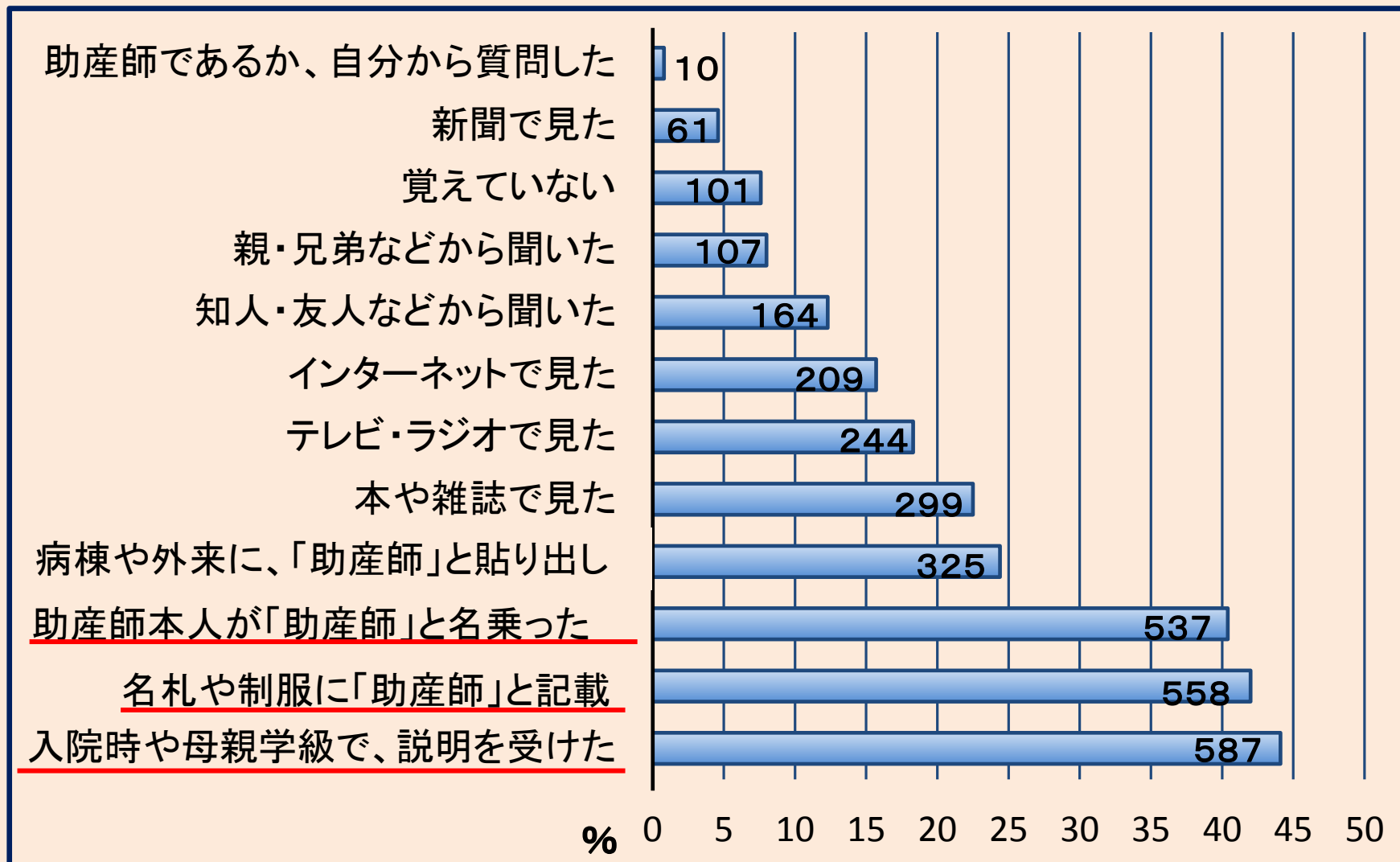
助産師を知るきっかけは？（複数回答）

認知経路

- 1.助産師本人が「助産師である」と名乗った
- 2.名札やユニフォームに「助産師」と記載されていた
- 3.病棟や外来に張り出されていた名前や写真に「助産師」と記載されていた
- 4.入院時や母親学級で、説明を受けた
- 5.助産師であるか、自分から質問した
- 6.テレビ・ラジオで見た
- 7.新聞で見た
- 8.本や雑誌で見た
- 9.インターネットで見た
- 10.知人・友人などから聞いた
- 11.親・兄弟などから聞いた
- 12.覚えていない

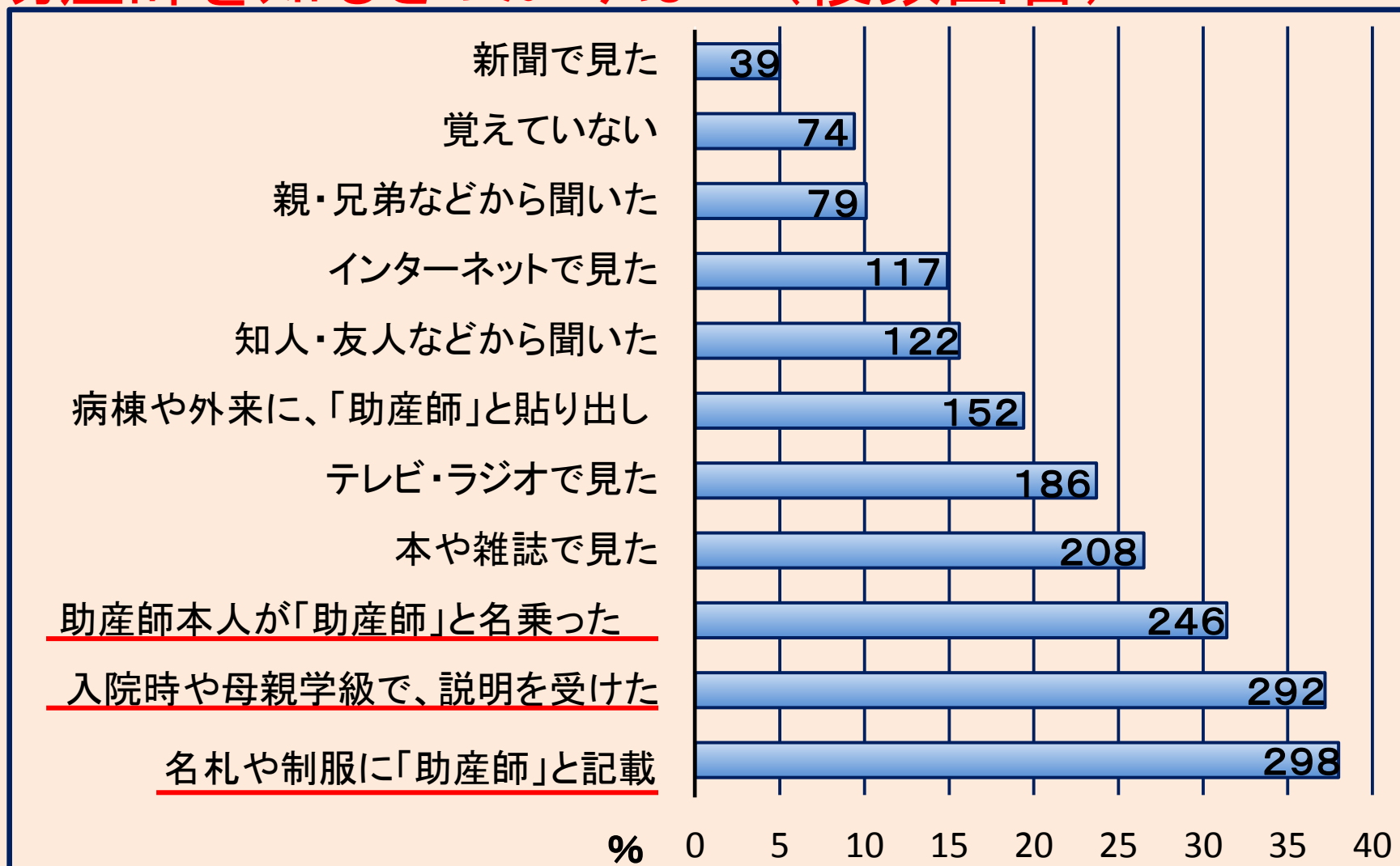
『助産師』の認知経路（病院出産者）

助産師を知るきっかけは？（複数回答）



『助産師』の認知経路（診療所出産者）

助産師を知るきっかけは？（複数回答）



『助産師』の認知経路

助産師の認知経路

□ 多い順

病院

- 4.入院時や母親学級で説明を受けた
- 2.名札やユニフォームに「助産師」と記載されていた
- 1.助産師本人が「助産師である」と名乗った

診療所

- 2.名札やユニフォームに「助産師」と記載されていた
- 4.入院時や母親学級で説明を受けた
- 1.助産師本人が「助産師である」と名乗った

□ 少ない順

病院・診療所ともに

- 5.助産師であるか、自分から質問した
- 7.新聞で見た
- 12.覚えていない

『助産師』の認知経路（施設間）

認知経路	病院n(%)	診療所n(%)	p値
1.助産師本人が「助産師である」と名乗った	537(40.4)	246(31.4)	<0.000**
2.名札やユニフォームに「助産師」と記載されていた	558(42.0)	298(38.0)	0.178
3.病棟や外来に張り出されていた名前や写真に「助産師」と記載されていた	325(24.4)	152(19.4)	0.016*
4.入院時や母親学級で、説明を受けた	587(44.1)	292(37.2)	0.008**
5.助産師であるか、自分から質問した	10(0.8)	3(0.4)	0.312
6.テレビ・ラジオで見た	244(18.3)	186(23.7)	0.001**
7.新聞で見た	61(4.6)	39(5.0)	0.600
8.本や雑誌で見た	299(22.5)	208(26.5)	0.016*
9.インターネットで見た	209(15.7)	117(14.9)	0.793
10.知人・友人などから聞いた	164(12.3)	122(15.6)	0.021*
11.親・兄弟などから聞いた	107(8.0)	79(10.1)	0.078
12.覚えていない	101(7.6)	74(9.4)	

χ²検定

*:p<0.05 **:p<0.01

入院中の看護師

入院中、主にケアを受けた看護師

	助産師	看護師	どちらかわからない
病院(%)	837人(63.9)	235人(17.9)	238人(18.2)
診療所(%)	394人(52.0)	185人(24.4)	178人(23.5)

病院、診療所ともに、助産師を認識している人でも、実際に入院中にケアを受けた看護師が**看護師なのか助産師なのか**わからないと答えている人が一定数いた。

考察

- 対象者のほぼ全員が、「助産師」という専門職を認識していた

- 産後1カ月健診を受診した褥婦の9割以上が、助産師を認知していた

(蛸崎ら、2007)

- 妊婦の98%が助産師を知っていた

(青柳ら、2010)

- 一般学生の43%が助産師を知らない、もしくは名前のみを認知していた

(柴田ら、2008)

助産師は、妊娠・分娩・育児だけではなく、女性の生涯にわたる性と生殖に関する役割が期待されている専門職である。しかし、女性は“妊娠”をきっかけに、助産師を認識している可能性がある

考察

- 対象者は、助産師が名乗る、名札やユニフォームをみて助産師を認知していた
- 助産師を認識している対象者でも、約2割の対象者は、入院中にケアを受けている看護師が看護師か助産師かわかっていなかった

□産後の女性が助産師と看護師の区別ができるのは6割であった

(山口ら、2012)

□ユニフォームやバッジで助産師とわかるようにしている施設は24%だった

(日本看護協会、2013)

女性は、助産師が名乗るか、もしくは看護師と識別できるような名札やユニフォームがなければ、助産師を認知することが出来ない可能性が示唆された

考察

- 認知経路別にみると、病院出産者は診療所出産者に比べ病院や助産師と関わるような経路で認知していた
- また、診療所出産者は病院出産者に比べ、メディアや知人など、間接的に助産師を認知する経路が多かった

□日本の分娩取り扱い件数は病院と診療所で半々だが、就業助産師数は病院に約62%、診療所に約25%である

(看護関係統計資料集、2014)

女性は、助産師が名乗る、名札をみるなど、直接助産師と関わることで助産師を認知していると考えられるため、助産師数が少ない施設では外部媒体を活用して助産師を認識していると考えられる。助産師が積極的に女性に関わっていく必要性が示唆された

結論

- 出産した女性は、ほぼ全員が助産師という専門職を認識していた
- 助産師の認知経路は、助産師が名乗る、名札やユニフォームに「助産師」と記載されている、入院時や母親学級で説明を受ける等、直接助産師と関わることであった